伊那弥生ケ丘高等学校
校長通信 ～知徳兼ねつつ たくましく～
第17号
令和8年 11 月5日

県下ギタマン 音色の競演・・・器楽部 全国コンクールへ

11 月３日（火）、第 56 回長野県高等学校ギター・マンドリンフェスティバルが千曲市のあんずホールを会場に開催され、本校の器楽部が参加しました。

クラブの歩み 本校器楽部は、1960 年（昭和 35 年）４月に音楽クラブから独立して以来、66 年間活動してきた歴史と伝統のある部活動です。部員数は、かつては 100 名を超える大所帯で活動した時代もありました。全国コンクールには 1990 年（平成２年）に初めて推薦され、近年では全国知事会賞（３位）を受賞するなど、着実に実績を重ねてきています。現在は、生徒急増期に建設されたプレハブ教室を中心に、日々の練習に励んでおり、多くのＯＢ・ＯＧに支えられ、地域から愛されている部活動です。


本校の演奏


審査員の先生の講評を聞く様子

『山河緑照』の演奏 本校は２年生 21 名、１年生 10 名の計 31 名による『山河緑照』の演奏を発表しました。数日前まではなかなか音が合わなかったようですが、前日練習と当日リハを通じて、全体がまとまってきたそうです。本番では、各パートやソロが織りなすハーモニーにより、その重奏が立体的な音色として奏でられました。まさに、山々の緑が川の水面に美しく照って映えるような風景が表現されたと思います。


賞状とトロフィーを囲んで

審査結果 参加８校全てが「優秀賞」を受賞し、来年７月に大阪で予定されている全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールへの出場が決まりました。また、本校は７年連続の快挙となる「最優秀賞」を得ることができました。生徒たちには満面の笑みで喜ぶ姿がみられるなか、安堵した表情があったことも印象的でした。本当におめでとうございます。


旧校舎時代の先輩（S38 年度卒業アルバムより）